

2021/3/13-2

(うとQ世話し がっかりさせたら、ごめんなさいね。の「告白」)

ちょっと前の記事で「内外(うちそと)合せ」の続編は、家を占拠され一人で乗り込んで追出した話なんかを書いたせいか「なんやら、こいつ、物騒なやっちゃなあ」という事でしょうが、その前の「内外(うちそと)合せ」の反響から読者数が激減を致しました。

余計なことを書いたものだと大いに反省をしておりますが、前編の方はかなりご興味を持って戴けたようなので、もう少しリアルに書いてみようと思います。

人には転機というものがなにがしかあります。

例えば、3. 11の大震災や終戦、経済危機など。

しかし、人の転機がこのような大事件や大きな不幸をきっかけにしてしか起こらないという事になると、大きな問題になってしまいます。まさか、自分の転機を迎えるために、そんなことが起きるのを待っているわけにもいきませんし。

で、大抵の転機はちょっとしたことがきっかけで起こるようになって居るようです。

前にも書きましたが、成功者の成功話の中に出てくるような「特筆すべきイベント」などと言うのは、話を面白くするための「脚色」が殆どで、実際の転機のきっかけというものは、実のところ全く取るに足らない、日常の、ほんの一瞬の中に存在している気がします。

それで、内外(うちそと)合せの元になったうつ病の「克服(敢えて此处ではこう言います)」に関して、そのきっかけ、それを今までは例の脚色によって

「どん底についた。後はもう下がない。下がないという事は、逆にこれから先は上に行くだけだ」みたいな「劇場型ドラマ」に仕立て上げて参りましたが、実のところはこんな感じだったのです。

曰く

「なんかもうつかれちゃったな。面倒くさ。もうどうでもいいや。どうにでもなれ。おっさんが一人死んだところで大勢に影響があるわけでもないし、代わりはいくらでも居るだろうし。ほっときゃ良いのよ。ほっときゃ。あとはもう知らん。勝手にしてチョ」

というような感覚が一瞬過った後、何かが変わって「すーっと」気が楽になったような。

一言で言えば

「気が抜けた(ら、楽になった)」

とでもいいましょうか。

で、そのこと自体は今まで、まったく思い出もしなかったですし、意味がありそうな気もしなかった、というのが本当のところだったようです。

実に、実に

「たいしたことない「心のスリップみたいなもの」がきっかけで、知らぬ間に、いつの間にか、スイッチしていた」

のが、実話。

まあ、これでは文章作法上、余りに盛り上がりに欠け、盛り上がりを期待する読者の気持ち

を裏切ることになりそうだったので、今までは大げさに書いておりましたが、実際は「取るに足りない出来事（スリップ=揺らぎ）」がきっかけだったような気がしましたので、今日は「告白がてら」真実をおはなしさせて戴きました。  
がっかりさせたら、ごめんなさいね。